

第3学年 理科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「こん虫のかんさつ」

2 単元の目標

昆虫の成虫には頭・胸・腹があり、身近な生物は周囲の環境と関わって生きることを理解し、実物の観察・実験と記録を扱う技能を身に付ける。「見付けた虫の体やすむ場所には、どんな共通点と違いがあるだろうか」を追究し、根拠を基に考えを表す。自分の記録を見直し、分からないことを確かめながら学習に取り組む。(B(1))

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①昆虫の成虫には頭・胸・腹があり、身近な生物は周囲の環境と関わって生きることを理解している。 ②実物の観察・実験と記録について、対象、条件や時期、調べて分かったことを区別して記録している。	①観察した共通点や違いを基に、「見付けた虫の体やすむ場所には、どんな共通点と違いがあるだろうか」につながる問題を見だし、表現している。	①こん虫のかんさつの学習で生じた疑問について、自分の記録や友達の考えを基に調べ方や説明を見直し、解決しようとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

「こん虫のかんさつ」は、第3学年のB(1)を手掛かりに、自然の事物・現象を調べる単元である。中心となる理解は、昆虫の成虫には頭・胸・腹があり、身近な生物は周囲の環境と関わって生きることである。名称を覚えて答えるだけでなく、「見付けた虫の体やすむ場所には、どんな共通点と違いがあるだろうか」に答えるために何を見て比べればよいかが授業の焦点になる。

本案では、安全な観察場所と記録方法を確かめるところから始め、昆虫以外との共通点と違いを分類する活動を通して考えを確かめる。結論だけを先に提示すると、観察や資料が答え探しになるため、予想と理由を残してから調べる。単元末には新たに調べたい問題を記すことで、学んだ言葉と根拠が結び付いているかを確かめる。

学校の既習と実態は資料だけでは決められない。前の記録を見て、説明に必要な言葉や道具の扱いを確かめる。扱ったことのない内容を既習として書き込まず、必要な確認を導入に加える。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

本時では「見付けた虫の体やすむ場所には、どんな共通点と違いがあるだろうか」を中心の問いに据える。校庭の安全な場所で見付けた生き物を、体の形と見付けた場所を対にして記録する。拡大写真で頭・胸・腹と脚の付く場所を調べ、昆虫以外の小動物とも比べる。名前が分からないものは勝手に決めず図鑑で確かめる。

児童の最初の考えを消して正答に直させるのではなく、どの記録で考えが変わったかが分かるよう書き足させる。小さい生き物は全部昆虫という判断には、体の分かれ方と脚の付く場所を比べる。見付けた場所の数だけで好む場所を断定せず、餌や隠れ場所も観察する

資料を読むことや書くことが負担になる児童には、比較する箇所を絞った図、読み上げ、指差しや口頭説明を用意する。説明の代筆は児童に内容を確認してから行い、文字量で理解を判断しない。早く説明できた児童には、同じ説明が当てはまらない記録がないかを探させる。

安全と扱いの留意点は次のとおり。ハチなど危険な生き物は近づかず観察を中止する。捕獲は必要最小限にして元の場所へ戻し、虫を触れない児童は写真で観察する

5 指導と評価の計画（全4時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○安全な観察場所と記録方法を確かめる。 ○体の形とすむ場所を観察する。	知①・知②（記録・活動の観察）
第2次	2	○昆虫の成虫の体を拡大して調べる。	知①・知②（記録・活動の観察）
第3次	3 （本時を含む）	○昆虫以外との共通点と違いを分類する。 ○周囲の環境と関係することを話す。 ○校庭の安全な場所で見付けた生き物を、体の形と見付けた場所を対にして記録する。拡大写真で頭・胸・腹と脚の付く場所を調べ、昆虫以外の小動物とも比べる。名前が分からないものは勝手に決めず図鑑で確かめる。	思①（個人の説明・記録）
第4次	4	○新たに調べたい問題を記す。	態①（記録の見直し・振り返り）

6 本時の指導（3／4（配当案））

（１）本時の目標

観察した共通点や違いを基に、「見付けた虫の体やすむ場所には、どんな共通点と違いがあるだろうか」につながる問題を見だし、表現することができる。

（２）学習過程

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	○前時までの記録から「安全な観察場所と記録方法を確認する」ときの疑問を取り出す。 ○「見付けた虫の体やすむ場所には、どんな共通点と違いがあるだろうか」 【めあて】調べた事実を使い、自分の考えと理由を説明しよう。 ○一人で予想と理由を書き、調べたい点を確認する。 〈予想される児童の反応〉 ・昆虫の成虫には頭・胸・腹があり、身近な生物は周囲の環境と関わって生きるのか確かめたい。 ・前の記録と比べると違いが見つかりそう。	・答えを先に示さず、児童がどの記録を根拠にしたかを尋ねる。 ・ハチなど危険な生き物は近づかず観察を中止する。捕獲は必要最小限にして元の場所へ戻し、虫を触れない児童は写真で観察する
展開 （ 分）	○校庭の安全な場所で見付けた生き物を、体の形と見付けた場所を対にして記録する。拡大写真で頭・胸・腹と脚の付く場所を調べ、昆虫以外の小動物とも比べる。名前が分からないものは勝手に決めず図鑑で確かめる。 ○「どの観察結果から、そう考えましたか」 ○自分の説明を相手に示し、根拠が同じか違うかを比較する。 ○説明できない記録があれば条件や資料の読み方を確認し直す。 ○比べた結果から新たな問題を見だし、何を調べたいかとその理由を表す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じだと思ったが、比べるところをそろえると違いがある。 ・この記録だけではまだ決められない。 ・昆虫以外との共通点と違いを分類することで、理由を確認めたい。	・小さい生き物は全部昆虫という判断には、体の分かれ方と脚の付く場所を比べる。見付けた場所の数だけで好む場所を断定せず、餌や隠れ場所も観察する ・結果に合わない意見も記録へ戻る材料として取り上げ、発言した児童を責めない。 ・比較が難しい児童には記録の対応する箇所を指し示し、まず事実を口頭で説明させる。 ◎思① 観察した共通点や違いを基に、「見付けた虫の体やすむ場所には、どんな共通点と違いがあるだろうか」につながる問題を見だし、表現している。 （個人の記録と説明。交流前後の変更理由を含めて見る。）

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （ 分）	○本時の問いへの答えを、根拠となる観察結果とともに書く。 【まとめ】昆虫の成虫には頭・胸・腹があり、身近な生物は周囲の環境と関わって生きる。 ○最初の考えから変わったことと、まだ調べたいことを記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・考えが変わったのは、記録を比べたときに違いを見付けたから。 ・まだ確かめていない条件が残った。	・まとめは得られた記録の範囲に限定する。予定どおりの結果が出なければ条件と方法を見直し、実測結果を作り替えない。 ・振り返りで分かった支援の必要な点は次時の活動に反映する。 ・本時の重点は「比べた結果から新たな問題を見だし、何を調べたいかとその理由を表す。」であり、知識の結論だけで思考の評価を決めない。 ◎知①（まとめの説明）／態①（記録を見直す過程。発言回数や文章量だけで判断しない。）

（３）板書計画

上段に「こん虫のかんさつ」と本時の問い「見付けた虫の体やすむ場所には、どんな共通点と違いがあるだろうか」。左側に予想とその理由、中央に実際に調べた事実の記録、右側に事実から考えた説明を置く。中央は条件・時期・対象が分かる見出しにし、比較する記録を同じ高さに並べる。昆虫以外との共通点と違いを分類する際に用いた記録を残し、根拠と説明を線で結ぶ。下段には確かめられたことと、まだ残る問いを分けて置く。発言の多い子の説明だけで仕上げず、個人の記録の違いを残す。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」（@mie_ai_katsuyo）
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
 みえ先生ラボ

